

## 第4回 シールドトンネル施工技術検討会 議事要旨

1. 日時 令和3年11月30日（火）17：00～18：15

### 2. 出席者

龍岡文夫委員長、久保和幸委員、神田政幸委員、佐藤研一委員、三村衛委員、森川嘉之委員

※建山和由委員は欠席

### 3. 議事概要

- ガイドライン（素案）について、事務局より説明を行った。
- 説明後の質疑応答において、委員より以下の趣旨の意見があった。
  - ・ 施工前の調査、設計の段階でリスクを網羅することは困難であるが、その段階で可能な限りリスクの整理を行うことが重要かつ基本であることを認識した上で、リスクの抽出を行うことが必要である。
  - ・ 事故は地質のリスクが関係していることが多いことから、地質の不確実性を評価するために、地質の専門家の確認を受けることが望ましい。
  - ・ 排泥管の閉塞や周辺環境への影響について、シールドマシンの設計の段階から配慮することが望ましい。
  - ・ 施工における各計測は、単に計測し結果を見るだけではなく、その結果から異状の発生を察知することが目的であることを認識することが必要である。このため、計測結果を受けた対応のシナリオを持つておくことが重要である。
  - ・ 読者の理解を深めるため、文字情報だけでなく、可能な範囲で図や写真、実際の掘削土量の計算例などを示すことが重要である。
  - ・ 「4. 施工」における項目の記載の順番は、実際の施工の順番と合わせた方が分かりやすい。
  - ・ 本文の参考として記載してある事例や新技術について、付録のどこに結びつくのかを記載した方が分かりやすい。